

I 実践

1 研究主題

互いを認め合い、思いやりや助け合いの心を育てる人権教育の在り方

(1) 主題設定の理由

本校では、めざす児童像の実現に向け教職員を「元気 UP プロジェクト」「学び UP プロジェクト」「笑顔 UP プロジェクト」と、3つのプロジェクトチームに構成し、各種教育活動を展開している。人権教育は「笑顔 UP プロジェクト」に属し、明るく、あいさつができる子・友達の立場や気持ちを考える思いやりのある子・進んで協力し助け合う子 の育成を目指し取り組んできた。実践内容としては、あいさつ運動の推進、豊かな体験を通した実践的な道德教育の充実、望ましい集団活動を通した特別活動の充実、特別支援教育の充実など児童の心を豊かに育むための活動が挙げられる。これらの教育活動を通して、一人一人がお互いの良さを認め合い思いやりの気持ちをもって、共に助け合うことのできる児童を育てたいと考えた。

(2) 研究の内容

- ア 人権意識を育む体験活動
- イ 人権に関する啓発活動

2 実践内容

(1) 人権意識を育む体験活動

ア あいさつ運動

本校では、毎朝生活委員会の児童と教職員が昇降口付近に立ち、登校してくる児童にあいさつ運動を実施している。生活委員会の児童が、大きな声で元気に言葉をかけるので、あいさつが苦手だった児童も少しずつ元気にあいさつが返せるようになってきている。毎年、学期ごとにマナーアップ週間の時期に合わせて泉丘中学校の生徒や PTA の役員と連携したあいさつ運動を行っているが、今年度は感染症予防のため校内のみで実施してきた。



あいさつ運動

イ いじめ0（ゼロ）運動

児童集会で、毎年いじめ0集会を実施している。今年度は「いじめ0週間」として、いじめがなぜいけないことなのか、自分がいじめをされたらどうするか、いじめを目撃してしまったらどうするかなどを、各学年の発達段階に応じて学級で話し合い、「いじめ0のちかい」を決め、昇降口に掲示した。

「いじめ0の宣誓書」にサインをし、「いじめ0」シールを胸章の裏に貼ることで「いじめをしない」という誓いを立てた。

さらに、学校だより、学年だよりなどで「いじめ0（ゼロ）運動」の取り組みの様子を保護者に知らせ、理解啓発を図っている。



いじめ0運動 学級の誓いの掲示

ウ のびのびタイム＜縦割り異学年交流＞

月に1回程度、ロングの昼休みに1年生から6年生まで縦割り班で交流する活動である。6年生が班長になり、下級生の意見を聞きながら遊びを決めている。それぞれ13班に分かれた班ごとに、ドッジボールや大縄、リレー、鬼ごっこ、昔遊びなどを実施している。

6年生が中心になり、整列の仕方や遊び方などを下級生に優しく教え、交流を深めている。異学年との交流する機会を得て、高学年のリーダーとしての意識が芽生えとともに、普段は外遊びが苦手な子どもたちも自然に溶け込み、異学年と遊ぶ楽しさを感じる時間となっている。感染症予防のため、遊びの内容を工夫してきた。



縦割り班交流

(2) 人権に関する啓発活動

ア 「人権メッセージ」・「人権ポスター」作品への応募

夏休みの課題として人権メッセージ・人権ポスターを募集した。「人権メッセージ」は、児童が人権について考えるきっかけとなる有効な方法である。自分なりの考えや思いを自分の言葉で表現することで、人権意識が高まっていくと考えられる。

イ 道徳コーナーの設置

道徳における人権教育に関する資料の掲示や「ふわふわ言葉集め」など、友達と仲良く生活しようという気持ちを育てる環境作りに努めている。また、友達の良さや多くの感動体験を共感できるようにしている。

ウ アニメ「めぐみ」を活用した道徳の授業

6年生の道徳の授業で家族愛を中心題材として行った。児童の人権にも触れ、一人一人を大切にしていけることが、人権を守り幸せな生活を築くことができることにつながるということについても学習した。

エ 保護者や地域への啓発

学校だよりや学校ホームページを通して、保護者や地域の方々にも人権教育に関する本校の取り組みについて知らせ、理解啓発を図っている。



道徳コーナー

3 研究の成果

- (1) 本年度は感染症予防のため、地域との交流や体験活動が難しい実態を踏まえ、校内での行事の取り組み方を工夫してきた。制約がある中でも児童への人権意識が高まるような充実した取り組みをすることができた。
- (2) 「いじめ0運動」は、家庭でもいじめについて話し合ってもらい、「めばえ」や「心のノート」に親子で記入することからスタートし、家庭で話し合ったことをもとに学級で意見をまとめて「いじめ0のちかい」を立てたり、いじめ0宣誓書にサインしたりすることで、「いじめをなくす」という意識が向上した。
- (3) のびのびタイムでは、縦割での遊びを通して、下級生は素直に上級生の意見を聞き上級生は下級生のことを考えながら活動するという、フォロアーシップを発揮することができた。
- (4) 人権コーナーを進んで見る児童の姿が見られた。人権メッセージでは、人権について考えるよい機会となった。また、児童の人権メッセージや人権ポスターを掲示することで、友だちの考えや思いを知り、自他の理解や尊重につながった。また、家庭で人権について話し合ったり、親子で人権メッセージを考える機会をもったりして人権教育への理解・啓発を図ることができた。

II 今後の課題

今年度は、感染症予防のため、いろいろな活動を縮小した。特に人権活動の大きな柱となっていた地域との交流や外部講師を招いての人権活動や人権教室などが実施できなかった。このような環境の中でも充実した人権教育ができるように、人権に関する学習や活動の仕方をさらに工夫し、児童一人一人の人権意識を高め、実践できる態度を育てていきたい。また、教職員の校内研修や、家庭・地域への啓発をさらに充実させて、学校・家庭・地域と連携しながら、人権教育を進めていくことができるように努めていきたい。

III 人権コーナー設置の様子

人権コーナーには、「みんなが笑顔でいられるように」「みんなとなかよく」「相手の気持ちを考えて」「命を大切に」の言葉で人権について分かりやすく示したり、児童の人権メッセージと人権ポスターの作品を掲示したりして児童への啓発を図っている。

その他にも子どもの人権だよりや人権啓発ポスターなど掲示し、児童が人権について理解しやすい環境作りに努めた。



人権コーナーの様子